

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：23014

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実 態	課 題
◇ 全国学力・学習状況調査の結果、学習に対する意欲を示す指標は高い水準を維持しており、児童が前向きに学びに向かう姿が増えてきた。 ◇ 約9割の児童が「教員が安心して学習に取り組めるよう支援している」と回答している。教職員との良好な人間関係が、日々の学びを支える基盤となっている。 ◇ 委員会活動やクラブ活動を通して、設定した目標の達成に向けて、できることを考え、行動に移そうとする姿が見られるようになってきた。	◇ 学習した知識の定着度合いや、それらを活用して問題を解決する力に課題がある。 ◇ 「計画的な学習」や「振り返りの次への活用」に関する肯定的な回答が約6割に留まっており、学習の見通しを立て主体的に取り組を進める力や、仲間との協働を通じて学びを深めていく力の育成が課題である。 ◇ 自治的な活動において、提示された内容に丁寧に取り組む姿が育っている一方で、受動的な姿も見られ、見通しをもって、主体的に取り組を進める力に課題がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇本校の共通指標の「相互承認の感度」に関わる項目で、「自己承認」や貢献意欲は高い水準にある。一方、「他者への承認」にあたる友達のよさの発見や声かけといった具体的な行動は減少傾向にあり、集団の中での「必要とされている感」も低下している。このことは、困難なことに挑戦したり、粘り強く取り組んだりする意欲の低下とも連動していると考えられる。今後は、他者と認め合い、自分の居場所を感じることができ関わりを充実させ、相互承認のサイクルを活性化させることで、学ぶ力の向上を図りたい。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 自ら課題に向き合い、他者と認め合いながら学びを調整し、対話を通して深める力	
取 組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	重点：対話で学びを深める (1) 対話の土台づくり：友達のよさを認め合い、価値ある存在と捉える関係を育む。 (2) 対話を生む課題・問い：多様な考えを生む問いで、主体的な学びの出発点をつくる。 (3) 学びの見通し：単元のゴールを共有し、解決のプロセスを可視化することで、自律的に学ぶ姿を支える。 (4) 対話を深める支援：他者のよさを踏まえ、自分の考えを再構成する力を育てる。 (5) 学びの調整と更新：振り返りから「次への問い」を見出し、見通しを再構築するサイクルを確立する。
	自治的な活動の充実 に向けて
	重点：共に挑み、創り上げる経験を重ねる ① 自分たちの意思を実現するための計画と振り返りの往来。 ② 自分たちの問題を自分たちで解決するプロセスを明確にする。 ③ 挑戦する場や機会の創出 自分たちの行動に責任をもつ。 ④ 一人一人が「自分が大切にされている」と実感することができる場づくり。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
◇ 主に(3)や②について、クラウドネットワークを活用し、お互いの考えを相互参照することで、自らの考えを深められるような機会を設ける。 ◇ 主に①について、Google form で各自の意見を集約したり、まとめた資料を Google Classroom などて共有・保管したりすることで、自分たちの考えをまとめやすく、かつ参照しやすくする。	

<本プログラムの実行に向けて>



